



初任者研修「課題等研修Ⅳ」(中学校)

平成24年11月15日(木)実施
会場:高知商業高等学校

「高等学校の進路指導と中学校における進路指導の在り方について」

目的

キャリア教育についての研修を通して、中学校進路指導の在り方を理解するとともに、指導力の向上を図る。

研修Ⅰ【授業参観】

初任者は「国語総合」「日本史」「生物」など、自分の専門教科に応じて、高知商業高校の6校時の授業を参観しました。

研修Ⅱ【講義】

■「高等学校の進路指導について」

講師:高知商業高校 進路指導部 特進コース長 安岡 孝浩 教諭

Q 高知商業高校の特進コースとは？(平成23年度 設置)

【特進コースの目標】

- 3年間を通して、普通教科に重点を置いたカリキュラムを設定し、「行ける大学から行きたい大学」をめざす。
- ・1年次:授業規律・家庭学習習慣・基礎学力を身に付ける。
 - ・2年次:センター試験に対応するために粘り強く考える力、考え抜く力を養う。
 - ・3年次:センター試験対策を実施し、国公立大学や有名私立大学を目指す。
- 高知商業高校の特性を生かし、部活動や生徒会活動、学校行事との両立を図り、学ぶ意欲を高め、マネジメント能力も育成する。

【特進コースの主な教育計画】

- ・家庭学習:1年生は毎日最低1時間以上(2年生は2時間以上)
- ・課題:100%提出する必要あり(提出期限の超過、未提出の場合、部活動を停止し居残り学習)
- ・夏季、冬季講座:夏季10日間、冬季4日間(全員参加)
- ・模擬テスト:年3回(全員受験)
- ・7時限目:毎週火曜日、木曜日に実施
- ・小テスト:英語(年間24回)、国語(年間17回)→追試あり
- ・センター試験:原則全員受験(卒業試験に充てる)

Q 高校入学後に伸びる生徒とは？



安岡教諭

- ①将来の目標が明確
- ②自立心がある
- ③勉強と部活動が両立できる(特進コースの2年生のうち70%が部活動に所属)

■「中学校における進路指導の在り方について」

講師:高知商業高校 進路指導部 国公立進学対策担当 西岡 秀和 教諭

Q 志願理由書の書き方のポイントは？【演習】一見良さそうに見える志願理由書ですが、問題点を探してみましょう。

抽象的な表現のみで具体性を欠く

私は、高校三年間で様々な検定試験に挑戦し、簿記検定1級をはじめ、数々の実績を残すことができました。試験前は集中して取り組み、部活動との両立も果たすことができました。このことによって、何事も最後まであきらめずに、一生懸命取り組むことが大事であるということを感じました。私は、将来は生徒の気持ちを大切に英語の教師になりたいという夢を持っています。貴学に入学できれば、この夢を実現するために、高校三年間で培ってきた粘り強さと最後まであきらめない気持ちを忘れずに学習に取り組んでいきます。

どのようにして両立させたのか具体性を欠く

〇〇大学を志願する必然性(大学の特色)が不明確

類似語の繰り返いで裏付けがない



西岡教諭

- ①自分がアピールしたいことを焦点化する
- ②個性、オリジナリティを出す
- ③自分の体験を入れる
- ④「具体的に」と「なぜ？」を大切にする(目標の明確化)



演習に取り組む初任者

<初任者の感想>

- ・高校の授業を参観し、中学校の段階から高い目標を掲げて、将来の具体的な進路を切り開いていけるような指導や学習内容の工夫をしなければならぬと感じた。
- ・高校の授業はスピードが速いのではないかと考えていたが、復習する時間や問題を考える時間も十分に確保されていた。
- ・受験に関わる対策講座が計画的に行われている。その学校の体制が、進学率を上げている要因のひとつであることが分かった。
- ・4月に学ぶ姿勢をしっかりとつくること、こつこつ努力すること、提出物をきちんと出すことなど、当たり前のようなことであってもできていないことが多いので、中学校でできることは今からすぐにも取り組みたい。
- ・将来自分が何になりたいか、いろいろな選択肢を提示し、目標を持って学校生活を送れるよう生徒に話していきたい。

初任者研修 課題等研修Ⅳ【小学校】

平成24年11月16日（金）実施

会場：高知大学教育学部附属小学校複式研究室

○目的：複式学級における指導の在り方について学び、指導力の向上を図る

高知大学教育学部附属小学校において、第3・4学年算数の公開授業と複式学級における指導の在り方についての講話が行われました。


【研修Ⅰ】公開授業

授業者：高知大学教育学部附属小学校 小松 和久 教諭

第3学年「大きい数のわり算を考えよう」


第4学年「記録を見やすく整理しよう」

<p>《第3学年》</p> <p>1 本時の課題をつかむ。 (1) 問題を知る。</p> <p>90まいの色紙を3人で同じ数ずつ分けます。 1人分は何まいになりますか。</p> <p>(2) 課題を知る。 【お話をしよう】</p> <p>2 課題に取り組む (1) 個々に取り組む。 (2) 発表する。</p> <p>3 まとめる</p>	<p>間接指導</p> <p>直接指導</p> <p>間接指導</p> <p>直接指導</p>	<p>《第4学年》</p> <p>1 本時の課題をつかむ。 (1) 問題 → 課題を知る。</p> <p>どんなけがが多いかな？ どんな場所でけがが多いかな？</p> <p>【表に整理しよう！】</p> <p>2 一次元表に表す。</p> <p>3 二次元表に表す。 (1) 表し方を考える。 (2) 表に整理する。</p> <p>4 まとめる。</p>
<p>《間接指導とは？》</p> <p>子どもが自分たちで解決することを楽しむ場面で行われる指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 課題を自力で解決する場面 * 互いに考えを出し合い、子ども同士で考えを吟味しあう場面 * 学習したことをまとめ、適用する場面 <p>→ 直接指導において、子どもたちが主体性を発揮し、自ら進んで学習する場となるように指導することが大切！</p>	<p>《直接指導とは？》</p> <p>子どもにとって教師が必要な場面で行われる指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 課題を捉えさせる場面 * 子どもたちの考えを揺さぶる場面 * 基本事項の指導を徹底する場面 * 子どもの学習状況を把握する場面 <p>→ 間接指導において、誰もが自分で動き出すように指導することが大切！</p>	



自分の考え方を発表しあう3年生

渡りとは



先生から直接指導を受ける4年生（手前）

教師の指導が移り変わること

全体として、間接指導と直接指導が互いに生かされるような指導を

【研修Ⅱ】講話 「複式学級における授業づくりについて」

講師：高知大学教育学部附属小学校 小松 和久 教諭

<p>1 複式学級で算数の授業をつくる</p> <p>(1) 授業づくりで意識していること</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 複式の特性（よさ）を授業で生かす <ul style="list-style-type: none"> ・ 短所より長所を生かそうとする教師の姿勢が大切 (長所：発言や直接体験の機会が多い、発言しやすい雰囲気など) ② 子どもが主体的に取り組める手立て <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を明確にする ・ 子どもだけでできる活動を教師が考える → 「渡り」がスムーズにできる ③ 問題解決的な授業展開を仕組む <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題提示 → 課題把握 → 話し合い・解決 → まとめ・適用問題 (形式的にならないように気をつける) <p>2 複式学級において「話し合い・解決」場面を成立させるために</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 話し合い活動のイメージをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもだけで解決させることを期待しすぎない (2) ホワイトボードを用いて考え方を書かせる <ul style="list-style-type: none"> ・ 書かせる内容や書かせ方によって話し合いの様子が異なる (3) 司会の子どもの大切な言葉をメモさせる <ul style="list-style-type: none"> ・ 色の違うボードを置き、大切だと思える言葉を書かせる → 教師が見て、子どもたちの話し合いの内容を把握できる (4) 司会の子どもに対する支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会のよいところを見つけてほめる ・ 簡単なことをさせる ・ 大切な言葉は何か問いかける 	<p>(2) ①～③を具現化するために…</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間の中で全員が自分の言葉で表現する機会をつくる (発表、文章化、絵や図にする) ○ 子どもに「問い」をもたせる 「あれ？」と思う場面を作る → 何もしない子どもをつくらない ○ ホワイトボードやICT機器を活用し、子どもに操作させ自分たちで学習が進められるようにする
--	--

<受講者の感想>

- ・ 間接指導の際、子どもたちが自分たちで話し合いができるよう、大事な言葉を板書するなど工夫がなされていた。単式でも班活動において有効だと感じたので、今後取り入れていきたい。
- ・ 複式と聞くと、教師の関わりが半分になるというマイナスのイメージがあったが、直接体験や発言の機会が増えるというプラス面もある。それを生かしていこうという教師の姿勢が大切だということが分かった。

ご意見・ご感想等を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。